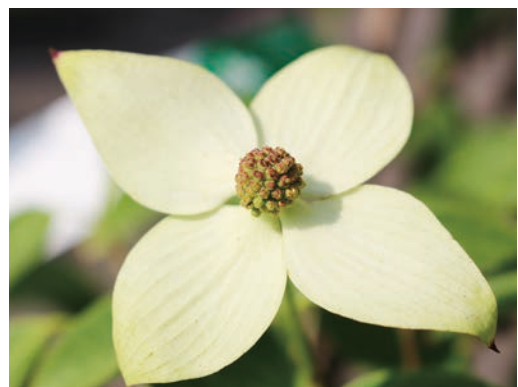


▲ 樹里安だより

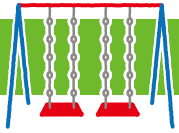
ジュリアン

2020年
Vol.40



— 植木屋さんのおすすめ植物（その5） — 常緑ヤマボウシ

日本原産のヤマボウシは落葉性だが、外国原産のホンコンエンシス系統の品種とヒマラヤヤマボウシのみ常緑性を持つ。初夏になると一斉に咲く一重の花は白～クリーム色、開花期が長く、上手く育てるとぎっしりと数多くの花を咲かせる。また、独特な形をしたピンク色の実は熟すと甘く、生食、ジャム、果実酒など食用にもなる。寒さに弱いため、北関東以北に植える場合や、寒さの厳しい時期は注意が必要だが、鉢植えができ、和洋問わず様々な場所で育てられる上に、病虫害も少ないなど魅力的な点が多い樹木である。



静かなたたずまいの快適な環境

サクラが自慢の三ツ和公園

国道122号の新芝川鳩ヶ谷大橋から100m北にある公園は全体がすっぽり樹木に覆いつくされ、自然林を感じさせるようなたたずまいをみせている。

昭和36年、埼玉県が施工した土地区画整理事業で同40年に地元に移管され、旧鳩ヶ谷市が整備し同44年3月に公園として設置した。その後、平成3～4年度に県費事業（パークandロード事業）が行われ、特に身体障害者のトイレや野外ステージなどが設けられた。

住宅街に囲まれ長方形で平坦な場所に位置する公園は、面積1,430㎡。芝生をはった樹林帯10,080㎡をメインにゲートボール場のある多目的広場684㎡、野外ステージ559㎡、また1,142㎡の遊戯広場にはブランコ、鉄棒、カサ型のぼり棒、スプリング遊具、砂場、コンビネーション遊具など。また、ベンチ、水飲場、便所、時計塔、駐輪場等も整えられている。

公園内には約300本の樹木が繁茂している。約90本のサクラをトップに常緑樹や花木など種類も豊富だ。サクラは主にソメイヨシノで、昭和44～45年に旧鳩ヶ谷観光協会が近くの新芝川の堤防道路に植えられたものを、その後舗装工事の際、公園内に移植したといういきさつがある。この中に一本だけ薄黄色の花を咲かせる「御衣黄」という珍しい種類のサクラがあった。由来は定かでないが貴重な存在だと標札を立て保存している。地域の人たちは、この木を中心に全体のサクラを公園のシンボルとして大事に守っている。

ケヤキ、カナメモチ、エノキ、サンゴジュ、トウネズミモチ等に混ざって、サクラのほかウメ、ツツジ、ハナミズキ、キンモクセイ、サザンカ、ツバキなどの花木も数多く、四季折々の季節には花のリレーで公園内を美しく飾ってくれる。

一周500mのジョギングコースもあり、軽い運動やゲートボールのできる多目的広場とともに健康増進にも役立つ公園として親しまれている。



公園情報



- 1 開園年月日 昭和44年3月31日
- 2 所在地 川口市南鳩ヶ谷1丁目8番1
- 3 面積 15,189㎡
- 4 植栽数量 高木26種 約250本
中木 6種 約 50本
低木 2種 約140㎡ (寄せ植え)
- 5 公園の種別 近隣公園





炎天下に咲く太陽の花

鮮やかな黄花を誇るヒマワリ

ヒマワリといえば、ゴッホの有名な「ひまわり」の絵を思い浮かべる人が多いだろうし、初めて絵の具を手にした幼児たちの大半がヒマワリを画くそうだ。夏の強烈な陽光の中でたくましく咲く鮮黄色の花は、人の生活にも結びつき親しまれている植物の一つでもある。

原産は北アメリカで、キク科の不耐寒性1年草。コロンブスのアメリカ発見後、新大陸からスペインに渡り同国の植物園で栽培されたあと、ヨーロッパを通して全世界へ広まった。日本へは江戸時代の寛文年間に渡来した。原産のヒマワリは背丈が低く花も貧弱だったが、同園を中心に品種改良され多くの種類が作出された。草丈が4 m花径60 cmで種子がたくさんとれるロシアンジャイアント、高性一重咲きのコクリュウ、八重咲きのサンゴールド、背丈30～40 cm花径10 cmで鉢植えにも適している八重咲のイエローピグミーなど豊富だ。

いずれも丸くて鮮やかな花に人気があり、日本では各地の遊園地、農園でヒマワリの迷路まで作り、子供たちを喜ばせている。こんな話もある。茎が太く剛直で倒



れにくいのを利用して毎年、世界一高い背丈を競うゲームが開かれている。日本人も栽培に挑戦し7 mを超える長身ものを作出したが、ドイツ人が9 m超のものを育てたので残念ながら世界一を逸した。だがこれからも挑戦すると意気込んでいるようだ。

観賞用だけでなく種子から油が得られることから料理用の油、また茎葉を家畜の飼料用としても栽培されている。種子を煎って食用にもされており、中国、米国、ロシアなどではおやつとして食しているという。

属名はギリシャ語で、スペイン、イギリスでは「太陽の花」、フランス、ロシアなどでは「太陽についてまわる花」と呼ばれ、日本での漢名は「向日葵」で、「日輪草」「日回り草」ともいわれた。

このように太陽にあやかり広まった植物だけに各地で信仰の対象となった。古い時代には太陽神の化身としてあがめられたほか、ペルーでは国花、米カンサス州では州花など、また貴族豪族の紋章、記章に使われた。日本の弁護士会の胸のバッジもこの花のデザインで、自由、平等の意味が込められているという。ちなみにヒマワリの花ことばは「敬慕」「崇拜」である。

この植物は、大きな話題を呼んだことがある。「太陽について花が回るか、どうか」について論争が展開された。結局は植物学者の牧野富太郎博士の「太陽の方を向いているとはいえ、太陽の進向につれて回るとするのは誤り」と指摘した。これで一件落着となったが、ひと騒動を巻き起こした植物でもある。





記念樹にふさわしい木とそのいわれ

栄誉をたたえる

ボタン

ボタン科 ボタン属
(落葉広葉樹・低木・陽樹)



写真提供：埼玉県花と緑の振興センター

入賞・入選・叙勲などの輝かしい栄誉をたたえるには、豪華であでやかなボタンの花を。日本ではただ花といえばサクラだが、中国では花といえばボタンで、「花王」と尊称される。わが国には、奈良時代に渡来したといわれ、紅、紅紫、黄、白、絞りなど、色美しい品種が多く栽培されている。

1. 特徴

開花期 4～5月、結実期 8～9月。園芸品種が多い。冬に花を咲かせるカンボタンもある。

2. 植えるときの注意

時期 9～10月

場所 通風がよく、肥沃な土で、排水のよい日当たりの場所を選ぶ。

3. 管理のポイント

3月と花後に堆肥と化成肥料を施す。肥料は多く必要。病害が多いので気をつける。

他の木

キンモクセイ
カイドウ
サクラ
キンカン

常緑広葉樹・小高木・中庸樹・雌雄異株
落葉広葉樹・小高木・陽樹
落葉広葉樹・高木・陽樹
常緑広葉樹・低木・陽樹



川口緑化センターの主なイベント開催結果報告

1 第87回春の安行花植木まつり

平成31年4月13日(土)・14日(日)

川口緑化センターを中心に、5会場に分かれて開催しました。緑化センター会場では、植木・盆栽・園芸資材等の展示・販売と、生け花展、親子生け花教室、花植木オークションなどが開催されました。

会期中は、各会場を巡る無料シャトルバスも運行し、来場者には大変好評でした。



2 第22回春の園芸フェスタ

令和元年5月25日(土)・26日(日)

安行特産の植木、花き、盆栽などの展示・販売をはじめ、新鮮野菜や軽食の販売などを行いました。他にも園芸講習会、コサージュ体験会、園芸相談コーナー、昔遊びコーナーなどを行い、来場者には大変好評でした。



3 第10回川口安行の植木・盆栽展 麻布十番

令和元年9月21日(土)・22日(日)

植木・鉢物・盆栽等の展示・販売と、盆栽展示、盆栽・園芸デモンストレーションを行いました。また、園芸相談コーナーや盆栽の夜間展示を行い、来場者には大変好評でした。

外国人の来場者が多いため、英語通訳を実施し、来場者へ緑化知識の普及啓発を図ることができました。



4 第17回緑の学会・ふれあい講演会

令和2年1月18日(土)

園芸家であり、NHK「趣味の園芸」講師の杉井志織氏をお招きして、「お気楽園芸のススメ～暮らしは楽しい方がいい～」をテーマにご講演をいただきました。

実体験を交えた親しみやすい講演で、来場者へ緑化知識の普及啓発を図ることができました。





日本の伝承行事と植物

(その1)

日本人は、古来より花や緑の好きな民族といわれてきた。四季折々に、その季節の花鳥風月を愛でるだけでなく、草木の持つ生命力のたくましさや霊力を信仰とした無病息災や農作物の豊作などを祈願する多くの行事が伝承されてきた。近年、バレンタインデー、ハロウィーン、クリスマスなど外国の行事に押されて影をひそめているが、日本独自の民俗文化も大事に守っていききたい。主な伝承行事を紹介してみよう。

正月を寿く植物

新しい年を祝う植物といえば松竹梅。門松や松飾りとして供えるが、松は常緑で剛直な性質から「不老不易」の象徴としての存在。竹は強い萌芽力と成長力から成長と繁栄。梅は厳寒に花を咲かせる生命力とその高雅さが新年にふさわしいとされてきた。芸術面で鶴や鷹に松を配した作品が多いが、鶴の延年、鷹の勇猛さが、樹木の王者としての松に結びついたといわれる。

七草がゆ

1月7日に七草を入れたかゆを食べる行事は、奈良時代から行われてきた。万病をはらい邪気を除くためだが、冬のさなかにたくましく野に生えている青い植物を食べて健康を維持する意味もある。春の七草は、セリ、ナズナ、オギョウ(ハハコグサ)、ハコベラ(ハコベ)、ホトケノザ(コオニタビラコ)、スズナ(カブ)、スズシロ(ダイコン)。セリはリウマチ、ナズナは利尿、解熱、止血、ハハコグサはセキ止め、セキ切り、ハコベは催乳剤として漢方薬に用いられた。ちなみに春の七草に対して秋の七草は観賞用で、ハギ、オバナ(ススキ)、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、アサガオ(キキョウ)とされている。

小正月を飾る植物

1月15日の小正月には、ミズキ、ヤナギ、エノキなどの若木の枝に紅白の小さな餅やだんごをつけて、イネの垂れ穂を形づくる風習がある。餅やだんごの代わりに繭玉を飾る地方もあるが、いずれも豊年万作、無病息災を祈願したものである。東北地方では、正月の松の内に対し、小正月から月末までを花の内、または花正月と呼んでいた。これは花にちなんだ飾り物が多いからで、東北の人たちの美意識の高さがうかがわれる。

節分の豆まき行事

立春の前日となる2月3日が節分。本来は立夏、立秋、立冬の前日も節分であるが、とくに春の節分が重んじられるようになった。この日の代表的な行事が「鬼はらい」の豆まきで、悪霊の代表とされている鬼を追い厄ばらいするもので、以前は各家庭で一斉に行われた。豆まきに使われる豆は大豆をいったもので、大豆のもつ神秘的な力で悪霊を追い払おうというもの。以前は、この日の夕方になるとヒイラギの枝にイワシの頭を指して戸口につけておく風習もあったが、ヒイラギのトゲやイワシの悪臭で鬼の侵入を防ぐため、室町時代から行われていたという。

桃の節句

ひな祭り、桃花節とも呼ばれる3月3日の節句行事で、ひな人形を飾り女子を祝うようになったのは、江戸中期からだ。もともとは身のけがれを払う行事だったが、人形の体を撫で、けがれを移してから人形を水に流した風習が、室町時代末期から飾る人形に移り変わった。今も昔も変わらないことは、桃の花を飾ることである。桃には悪魔を払う霊力があり、また果実が女性の生殖器に似ていることから、その偉力によって悪魔払いしたと考えられている。このようなことから桃太郎が鬼退治した話もうなずけるし、別の立場からみれば「桃から生まれた桃太郎」というのは、子どもの出産部位を示した性教育ともいえよう。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：令和2年3月15日

発行：公益財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家 844-2

TEL.048-296-4021

ホームページ： <https://www.jurian.or.jp/>